校異源氏物語・きりつぼ

いつれの御時にか女御更衣あまたさふらひ給けるなかにいとやむことなきゝはにはあらぬかすくれて時めき給ありけりはしめより我はと思あかり給へる御方
くめさましきものにおとしめそねみ給おなしほとそれより下らうの更衣たちはましてやすからすあさゆふの宮つかへにつけても人の心をのみうこかしうらみをおふつもりにやありけむいとあつしくなりゆきもの心ほそけにさとかちなるをいよ　くあかすあはれなる物におもほして人のそしりをもえはゝからせ給はす世のためしにもなりぬへき御もてなし也かんたちめうへ人なともあいなくめをそはめつゝいとまはゆき人の御おほえなりもろこしにもかゝることのおこりにこそ世もみたれあしかりけれとやう　くあめのしたにもあちきなう人のもてなやみくさになりて楊貴妃のためしもひきいてつへくなりゆくにいとはしたなきことおほかれとかたしけなき御心はへのたくひなきをたのみにてましらひ給ちゝの大納言はなくなりてはゝ北の方なんいにしへの人のよしあるにておやうちくしさしあたりて世のおほえはなやかなる御方　くにもいたうおとらすなにことのきしきをももてなしたまひけれととりたてゝはか　くしきうしろみしなけれは事ある時はなをより所なく心ほそけ也さきの世にも御ちきりやふかかりけむ世になくきよらなるたまのをのこみこさへうまれ給ひぬいつしかと心もとなからせ給ていそきまいらせて御覧するにめつらかなるちこの御かたちなり一のみこは右大臣の女御の御はらにてよせをもくうたかひなきまうけの君と世にもてかしつきゝこゆれとこの御にほひにはならひ給へくもあらさりけれはおほかたのやむことなき御おもひにてこの君をはわたくし物におもほしかしつき給事かきりなしはしめよりをしなへてのうへ宮つかへし給へきゝはにはあらさりきおほえいとやむことなく上すめかしけれとわりなくまつはさせ給あまりにさるへき御あそひのおり　くなにことにもゆへあることのふし　くにはまつまうのほらせ給ある時にはおほとのこもりすくしてやかてさふらはせ給ひなとあなかちにおまへさらすもてなさせ給しほとにをのつからかろき方にもみえしをこのみこうまれ給てのちはいと心ことにおもほしをきてたれは坊にもようせすはこのみこのゐ給へきなめりと一のみこの女御はおほしうたかへり人よりさき

にまいり給てやむことなき御おもひなへてならすみこたちなともおはしませはこの御方の御いさめをのみそ猶わつらはしう心くるしう思ひきこえさせ給けるかしこき御かけをはたのみきこえなからおとしめきすをもとめ給人はおほくわか身はかよはく物はかなきありさまにて中　くなる物思ひをそし給御つほねはきりつほ也あまたの御方　くをすきさせ給てひまなき御まへわたりに人の御心をつくし給もけにことはりとみえたりまうのほりたまふにもあまりうちしきるおり　くはうちはしわたとのゝこゝかしこのみちにあやしきわさをしつゝ御をくりむかへの人のきぬのすそたえかたくまさなきこともあり又ある時にはえさらぬめたうのとをさしこめこなたかなた心をあはせてはしたなめわつらはせ給時もおほかり事にふれてかすしらすくるしきことのみまされはいといたう思ひわひたるをいとゝあはれと御覧して後涼殿に本よりさふらひ給更衣のさうしをほかにうつさせ給てうへつほねにたまはすその怨ましてやらむ方なしこのみこみつになり給年御はかまきのこと一の宮のたてまつりしにおとらすくらつかさおさめ殿のものをつくしていみしうせさせ給それにつけても世のそしりのみおほかれとこのみこのおよすけもておはする御かたち心はへありかたくめつらしきまてみえたまふをえそねみあへたまはす物のこゝろしり給人はかゝる人も世にいておはするものなりけりとあさましきまてめをおとろかし給その年の夏みやす所はかなき心地にわつらひてまかてなむとし給をいとまさらにゆるさせ給はす年ころつねのあつしさになりたまへれは御めなれて猶しはし心みよとのみのたまはするに日ゝにをもり給てたゝ五六日のほとにいとよはうなれははゝ君なく　くそうしてまかてさせたてまつりたまふかゝるおりにもあるましきはちもこそと心つかひしてみこをはとゝめたてまつりてしのひてそいて給かきりあれはさのみもえとゝめさせ給はす御覧したにをくらぬおほつかなさをいふ方なくおもほさるいとにほひやかにうつくしけなる人のいたうおもやせていとあはれと物を思ひしみなから事にいてゝもきこえやらすあるかなきかにきえいりつゝものし給を御覧するにきし方ゆくすゑおほしめされすよろつのことをなく　くちきりのたまはすれと御いらへもえきこえ給はすまみなともいとたゆけにていとゝなよ　くとわれかのけしきにてふしたれはいかさまにとおほしめしまとはるてくるまの宣旨なとのたまはせても又いらせ給てさらにえゆるさせ給はすかきりあらむみちにもをくれさきたゝしとちきらせ給けるをさりともうちすてゝはえゆきやらしとのたまはするを女もいといみしとみたてまつりて

かきりとてわかるゝ道のかなしきにいかまほしきはいのちなりけりいとか

く思たまへましかはといきもたえつゝきこえまほしけなる事はありけなれといとくるしけにたゆけなれはかくなからともかくもならむを御覧しはてむとおほしめすにけふはしむへきいのりともさるへき人　くうけたまはれるこよひよりときこえいそかせはわりなくおもほしなからまかてさせ給御むねつとふたかりてつゆまとろまれすあかしかねさせ給御つかひのゆきかふほともなきに猶いふせさをかきりなくのたまはせつるを夜中うちすくるほとになむたえはて給ぬるとてなきさはけは御つかひもいとあえなくてかへりまいりぬきこしめす御心まとひなにこともおほしめしわかれすこもりおはしますみこはかくてもいと御覧せまほしけれとかゝるほとにさふらひ給れいなき事なれはまかて給なんとすなにことかあらむともおほしたらすさふらふ人　くのなきまとひうへも御なみたのひまなくなかれおはしますをあやしとみたてまつり給へるをよろしきことにたにかゝるわかれのかなしからぬはなきわさなるをましてあはれにいふかひなしかきりあれはれいのさほうにおさめたてまつるをはゝ北の方おなしけふりにのほりなんとなきこかれ給て御をくりの女房のくるまにしたひのり給ておたきといふ所にいといかめしうそのさほうしたるにおはしつきたる心地いかはかりかはありけんむなしき御からをみる　く猶おはする物とおもふかいとかひなけれははひになりたまはんをみたてまつりていまはなき人とひたふるに思なりなんとさかしうのたまひつれとくるまよりもおちぬへうまろひ給へはさは思つかしと人　くもてわつらひきこゆ内より御つかひあり三位のくらひをくり給よし勅使きてその宣命よむなんかなしきことなりける女御とたにいはせすなりぬるかあかすくちおしうおほさるれはいまひときさみの位をたにとをくらせ給なりけりこれにつけてもにくみたまふ人　くおほかり物思ひしり給はさまかたちなとのめてたかりし事心はせのなたらかにめやすくにくみかたかりしことなといまそおほしいつるさまあしき御もてなしゆへこそすけなうそねみ給しか人からのあはれになさけありし御心をうへの女房なともこひしのひあへりなくてそとはかゝるおりにやとみえたりはかなくひころすきてのちのわさなとにもこまかにとふらはせ給ほとふるまゝにせむ方なうかなしうおほさるゝに御方　くの御とのゐなともたえてし給はすたゝなみたにひちてあかしくらさせたまへはみたてまつる人さへつゆけき秋也なきあとまて人のむねあくましかりける人の御おほえかなとそ弘徽殿なとには猶ゆるしなうのたまひける一の宮をみたてまつらせ給にもわか宮の御こひしさのみおもほしいてつゝしたしき女房御めのとなとをつかはしつゝありさまをきこしめす野わきたちてにはかにはたさむきゆふく

れのほとつねよりもおほしいつることおほくてゆけひの命婦といふをつかはす
ゆふつくよのおかしきほとにいたしたてさせ給てやかてなかめおはしますかう
やうのおりは御あそひなとせさせ給しに心ことなる物のねをかきならしはかな
くきこえいつる事の葉も人よりはことなりしけはひかたちのおもかけにつとそ
ひておほさるゝにもやみのうつゝには猶おとりけり命婦かしこにまうてつきて
かとひきいるゝよりけはひあはれなりやもめすみなれと人ひとりの御かしつき
にとかくつくろひたてゝめやすきほとにてすくし給へるやみにくれてふしゝ
つみ給へるほとに草もたかくなり野わきにいとゝあれたる心地して月影はかり
そやへむくらにもさはらすさしいりたるみなみおもてにおろしてはゝ君もとみ
にえ物ものたまはすいまゝてとまり侍かいとうきをかゝる御つかひのよもきふ
の露わけいり給につけてもいとはつかしうなむとてけにえたふましくない給ま
いりてはいとゝ心くるしう心きもゝつくるやうになんと内侍のすけのそうし給
しを物おもふたまへしらぬ心地にもけにこそいとしのひかたう侍けれとてやゝ
ためらひておほせことつたへきこゆしはしはゆめかとのみたとられしをやう
く思ひしつまるにしもさむへき方なくたえかたきはいかにすへきわさにかと
もとひあはすへき人たになきをしのひてはまいり給ひなんやわか宮のいとおほ
つかなくつゆけきなかにすくし給も心くるしうおほさるゝをとくまいり給へな
とはか　くしうものたまはせやらすむせかへらせ給つゝかつは人も心よはくみ
たてまつるらむとおほしつゝまぬにしもあらぬ御けしきの心くるしさにうけた
まはりはてぬやうにてなむまかて侍ぬるとて御ふみたてまつるめもみえ侍ら
ぬにかくかしこきおほせ事をひかりにてなんとてみ給ほとへはすこしうちまき
るゝこともやとまちすくす月日にそへていとしのひかたきはわりなきわさにな
むいはけなき人をいかにと思ひやりつゝもろともにはくくまぬおほつかなさを
いまは猶むかしのかたみになすらへてものしたまへなとこまやかにかゝせ給へ
り

宮木のゝつゆふきむすふ風のをとにこはきかもとを思ひこそやれとあれと
えみたまひはてすいのちなかさのいとつらう思給へしらるゝに松のおもはんこ
とたにはつかしう思給へ侍れはもゝしきにゆきかひ侍らんことはましていとは
ゝかりおほくなんかしこきおほせことをたひ　くうけ給はりなからみつからは
えなん思たまへたつましきわか宮はいかにおもほししるにかまいりたまはん事
をのみなむおほしいそくめれはことはりにかなしうみたてまつり侍なとうち
くに思たまふるさまをそうし給へゆゝしき身に侍れはかくておはしますもい

まいましうかたしけなくなむとのたまふ宮はおほとのこもりにけりみたてまつりてくはしう御ありさまもそうし侍らまほしきをまちおはしますらんに夜ふけ侍ぬへしとていそくくれまとふ心のやみもたえかたきかたはしをたにはるく許にきこえまほしう侍をわたくしにも心のとかにまかてたまへ年比うれしくおもたゝしきついてにてたちより給し物をかゝる御せうそこにてみたてまつる返〻つれなきいのちにも侍かなむまれし時より思ふ心ありし人にて故大納言いまはとなるまてたゝこの人の宮つかへのほいかならすとけさせたてまつれ我なくなりぬとてくちおしう思くつをるなと返〻いさめをかれ侍しかははか　くしううしろみ思人もなきましらひはなか　くなるへき事と思給へなからたゝかのゆいこんをたかへしと許にいたしたて侍しを身にあまるまての御心さしのよろつにかたしけなきに人けなきはちをかくしつゝましらひ給ふめりつるを人のそねみふかくつもりやすからぬ事おほくなりそひ侍つるによこさまなるやうにてつゐにかくなり侍ぬれはかへりてはつらくなんかしこき御心さしを思給へられ侍これもわりなき心のやみになんといひもやらすむせかへり給ほとに夜もふけぬうへもしかなんわか御心なからあなかちに人めおとろく許おほされしもなかゝるましきなりけりと今はつらかりける人のちきりになむ世にいさゝかも人の心をまけたる事はあらしと思ふをたゝこの人のゆへにてあまたさるましき人のうらみをおひしはて　くはかううちすてられて心おさめん方なきにいとゝ人わろうかたくなになりはへるもさきの世ゆかしうなんとうち返しつゝ御しほたれかちにのみおはしますとかたりてつきせすなく　く夜いたうふけぬれはこよひすくさす御返そうせんといそきまいる月はいりかたのそらきようすみわたれるに風いとすゝしくなりてくさむらのむしのこゑ　くもよほしかほなるもいとたちはなれにくき草のもと也

すゝむしのこゑのかきりをつくしてもなかき夜あかすふるなみた哉えものりやらす

いとゝしく虫のねしけきあさちふに露をきそふる雲のうへ人かこともきこえつへくなんといはせ給ふおかしき御をくり物なとあるへきおりにもあらねはたゝかの御かたみにとてかゝるようもやとのこしたまへりける御さうそくひとくたり御くしあけのてうとめく物そへ給ふわかき人　くかなしきことはさらにもいはす内わたりをあさゆふにならひていとさう　くしくうへの御ありさまなと思ひいてきこゆれはとくまいりたまはむ事をそゝのかしきこゆれとかくいま　くしき身のそひたてまつらんもいと人きゝうかるへし又みたてまつらてしは

しもあらんはいとうしろめたう思ひきこえ給てすかすかともえまいらせたてまつり給はぬなりけり命婦はまたおほとのこもらせたまはさりけるとあはれにみたてまつるおまへのつほせんさいのいとおもしろきさかりなるを御覧するやうにてしのひやかに心にくきかきりの女房四五人さふらはせ給て御ものかたりせさせ給なりけりこのころあけくれ御覧する長恨歌の御ゑ亭子院のかゝせ給て伊勢つらゆきによませ給へるやまとことの葉をももろこしのうたをもたゝそのすちをそまくらことにせさせ給いとこまやかにありさまとはせたまふあはれなりつる事しのひやかにそうす御返御覧すれはいともかしこきはをき所も侍らすかゝるおほせことにつけてもかきくらすみたり心地になん

あらき風ふせきしかけのかれしよりこはきかうへそしつ心なきなとやうにみたりかはしきを心おさめさりけるほとゝ御覧しゆるすへしいとかうしもみえしとおほししつむれとさらにえしのひあえさせ給はす御覧しはしめし年月の事さへかきあつめよろつにおほしつゝけられて時のまもおほつかなかりしをかくても月日はへにけりあさましうおほしめさる故大納言のゆいこんあやまたす宮つかへのほいふかくものしたりしよろこひはかひあるさまにとこそ思わたりつれいふかひなしやとうちのたまはせていとあはれにおほしやるかくてもをのつからわか宮なとおひいて給はゝさるへきついてもありなんいのちなかくとこそ思ねむせめなとのたまはすかのをくり物御覧せさすなき人のすみかたつねいてたりけむしるしのかんさしならましかはとおもほすもいとかひなし

たつねゆくまほろしも哉つてにてもたまのありかをそことしるへくゑにかける楊貴妃のかたちはいみしきゑしといへともふてかきりありけれはいとにほひすくなし大液芙蓉未央柳もけにかよひたりしかたちをからめいたるよそひはうるわしうこそありけめなつかしうらうたけなりしをおほしいつるに花とりのいろにもねにもよそふへき方そなきあさゆふのことくさにはねをならへ枝をかはさむとちきらせ給しにかなはさりけるいのちの程つきせすうらめしき風のをとむしのねにつけてものゝみかなしうおほさるゝに弘徽殿にはひさしくうへの御つほねにもまうのほり給はす月のおもしろきに夜ふくるまてあそひをそし給なるいとすさましうものしときこしめすこのころの御けしきをみたてまつるうへ人女房なとはかたはらいたしときゝけりいとをしたちかと　くしき所ものしたまふ御方にて事にもあらすおほしけちてもてなし給なるへし月もいりぬ

雲のうへもなみたにくるゝ秋の月いかてすむらんあさちふのやとおほしめしやりつゝともし火をかゝけつくしておきおはします右近のつかさのとのゐ申

のこゑきこゆるはうしになりぬるなるへし人めをおほしてよるのおとゝにいらせ給てもまとろませ給ことかたしあしたにおきさせ給とてもあくるもしらてとおほしいつるにもなをあさまつりことはをこたらせ給ひぬへかめりものなともきこしめさすあさかれひのけしき許ふれさせ給て大正しのおものなとはいとはるかにおほしめしたれははいせんにさふらふかきりは心くるしき御けしきをみたてまつりなけくすへてちかうさふらふかきりはおとこ女いとわりなきわさかなといひあはせつゝなけくさるへきちきりこそおはしましけめそこらの人のそしりうらみをもはゝからせ給はすこの御事にふれたる事をはたうりをもうしなはせ給ひいまはたかく世中のことをもおもほしすてたるやうになりゆくはいとたい　くしきわさなりと人のみかとのためしまてひきいてさゝめきなけきけり月日へてわか宮まいり給ひぬいとゝこのよの物ならすきよらにおよすけ給へれはいとゆゝしうおほしたりあくる年の春坊さたまり給にもいとひきこさまほしうおほせと御うしろみすへき人もなく又世のうけひくましき事なりけれはなか　くあやうくおほしはゝかりていろにもいたさせ給はすなりぬるをさはかりおほしたれとかきりこそありけれと世人もきこえ女御も御心おちゐたまひぬかの御をは北の方なくさむ方なくおほししつみておはすらん所にたにたつねゆかんとねかひ給ひししるしにやつゐにうせ給ひぬれは又これをかなしひおほすことかきりなしみこむつになり給年なれはこのたひはおほししりてこひなき給年ころなれむつひきこえ給へるをみたてまつりをくかなしひをなむ返ゝのたまひけるいまは内にのみさふらひ給なゝつになり給へはふみはしめなとせさせ給て世にしらすさとうかしこくおはすれはあまりおそろしきまて御覧すいまはたれも　くえにくみ給はしはゝきみなくてたにらうたうし給へとて弘徽殿なとにもわたらせ給御ともにはやかてみすのうちにいれたてまつり給いみしき物のふあたかたきなりともみてはうちゑまれぬへきさまのし給へれはえさしはなち給はす女みこたちふた所この御はらにましませとなすらひ給へきたにそなかりける御方　くもかくれ給はすいまよりなまめかしうはつかしけにおはすれはいとおかしううちとけぬあそひくさにたれも　く思きこえ給へりわさとの御かくもんはさる物にてことふえのねにもくもゐをひゝかしすへていひつゝけはこと　くしうゝたてそなりぬへき人の御さまなりけるそのころこまうとのまいれるなかにかしこきさうにむありけるをきこしめして宮のうちにめさんことは宇多のみかとの御いましめあれはいみしうしのひてこのみこをこうろくわんにつかはしたり御うしろみたちてつかうまつる右大弁の子のやうにおもはせてゐてたてまつ

るに相人おとろきてあまたゝひかたふきあやしふくにのおやとなりて帝王のかみなきくらゐにのほるへきさうおはします人のそなたにてみれはみたれうれふる事やあらむおほやけのかためとなりて天下をたすくる方にてみれは又そのさうたかふへしといふ弁もいとさえかしこきはかせにていひかはしたる事ともなんいとけうありけるふみなとつくりかはしてけふあすかへりさりなんとするにかくありかたき人にたいめむしたるよろこひかへりてはかなしかるへき心はへをおもしろくつくりたるにみこもいとあはれなる句をつくりたまへるをかきりなうめてたてまつりていみしきをくり物ともをさゝけたてまつるおほやけよりもおほくの物たまはすをのつから事ひろこりてもらさせ給はねと春宮のおほちおとゝなといかなる事にかとおほしうたかひてなむありけるみかとかしこき御心にやまとさうをおほせておほしよりにけるすちなれはいまゝてこの君をみこにもなさせたまはさりけるを相人はまことにかしこかりけりとおほして無品親王の外尺のよせなきにてはたゝよはさしわか御世もいとさためなきをたゝ人にておほやけの御うしろみをするなんゆくさきもたのもしけなめることゝおほしさためていよ　くみち　くのさえをならはさせ給きはことにかしこくてたゝ人にはいとあたらしけれとみことなり給なは世のうたかひおひ給ぬへくものし給へはすくえうのかしこきみちの人にかんかへさせ給にもおなしさまに申せは源氏になしたてまつるへくおほしをきてたり年月にそへてみやす所の御事をおほしわするゝおりなしなくさむやとさるへき人　くまいらせ給へとなすならひにおほさるゝたにいとかたき世かなとうとましうのみよろつにおほしなりぬるに先帝の四の宮の御かたちすくれ給へるきこえたかくおはしますはゝ后世になくかしつききこえたまふをうへにさふらふ内侍のすけは先帝の御時の人にてかの宮にもしたしうまいりなれたりけれはいわけなくおはしましゝ時よりみたてまつりいまもほのみたてまつりてうせ給にしみやす所の御かたちにゝたまへる人を三代のみやつかへにつたはりぬるにえみたてまつりつけぬをきさいの宮のひめ宮こそいとようおほえておひいてさせ給へりけれありかたき御かたち人になんとそうしけるにまことにやと御心とまりてねむころにきこえさせ給けりはゝきさきあなおそろしや春宮の女御のいとさかなくてきりつほのかういのあらはにはかなくもてなされにしためしもゆゝしうとおほしつゝみてすか　くしうもおほしたゝさりけるほとに后もうせ給ぬ心ほそきさまにておはしますにたゝわか女みこたちのおなしつらに思きこえんといとねんころにきこえさせ給さふらふ人　く御うしろみたち御せうとの兵部卿のみこなとかく心ほそくておはしま

さんよりはうちすみせさせ給て御心もなくさむへくなとおほしなりてまいらせたてまつり給へりふちつほときこゆけに御かたちありさまあやしきまてそおほえ給へるこれは人の御きはまさりて思なしめてたく人もえおとしめきこえ給はねはうけはりてあかぬことなしかれは人のゆるしきこえさりしに御心さしあやにくなりしそかしおほしまきるとはなけれとをのつから御心うつろひてこよなうおほしなくさむやうなるもあはれなるわさなりけり源氏のきみは御あたりさり給はぬをましてしけくわたらせ給御方はえはちあへたまはすいつれの御方も我人におとらんとおほいたるやはあるとり　くにいとめてたけれとうちおとなひ給へるにいとわかううつくしけにてせちにかくれ給へとをのつからもりみたてまつるはゝみやす所もかけたにおほえたまはぬをいとように給へりと内侍のすけのきこえけるをわかき御心ちにいとあはれと思きこえ給てつねにまいらまほしくなつさひみたてまつらはやとおほえ給うへもかきりなき御おもひとちにてなうとみ給そあやしくよそへきこえつへき心地なんするなめしとおほさてらうたくし給へつらつきまみなとはいとようにたりしゆへかよひてみえ給もにけなからすなんなときこえつけ給へれはおさな心地にもはかなき花もみちにつけても心さしをみえたてまつるこよなう心よせきこえ給へれは弘徽殿女御又この宮とも御なかそは　くしきゆへうちそへて本よりのにくさもたちいてゝものしとおほしたり世にたくひなしとみたてまつり給ひなたかうおはする宮の御かたちにも猶にほはしさはたとへん方なくうつくしけなるを世の人ひかるきみときこゆふちつほならひ給て御おほえもとり　くなれはかゝやく日の宮ときこゆこのきみの御わらはすかたいとかへまうくおほせと十二にて御元服したまふゐたちおほしいとなみてかきりある事に事をそへさせ給ひとゝせの春宮の御元服南殿にてありしきしきよそほしかりし御ひゝきにおとさせ給はすところ　くのきやうなとくらつかさこくさうゐんなとおほやけことにつかうまつれるおろそかなることもそとゝりわきおほせ事ありてきよらをつくしてつかうまつれりおはします殿のひむかしのひさしひんかしむきにいしたてゝ火んさの御座ひきいれの大臣の御さ御前にありさるの時にて源氏まいり給みつらゆひたまへるつらつきかほのにほひさまかへたまはん事おしけ也大蔵卿くらひとつかうまつるいときよらなる御くしをそくほと心くるしけなるをうへはみやす所のみましかはとおほしいつるにたへかたきを心つよくねんしかへさせ給かうふりし給て御やすみ所にまかてたまひて御そたてまつりかへておりてはいしたてまつり給さまにみな人なみたおとし給みかとはたましてえしのひあへ給はすおほしまきるゝお

りもありつるむかしのことゝり返しかなしくおほさるいとかうきひわなるほとはあけをとりやとうたかはしくおほされつるをあさましううつくしけさそひ給へりひきいれの大臣のみこはらにたゝひとりかしつき給おほん女春宮よりも御けしきあるをおほしわつらふ事ありけるこのきみにたてまつらむの御心なりけり内にも御けしきたまはらせ給へりけれはさらはこのおりのうしろみなかめるをそひふしにもともよほさせ給けれはさおほしたりさふらひにまかて給て人

くおほみきなとまいるほとみこたちの御さのするに源氏つき給へりおとゝけしきはみきこえ給事あれと物のつゝましきほとにてともかくもあへしらひきこえ給はすおまへより内侍せむしうけたまはりつたへておとゝまいりたまふへきめしあれはまいり給御ろくの物うへの命婦とりてたまふしろきおほうちきに御そひとくたりれいの事也御さかつきのついてに

いときなきはつもとゆひになかき世をちきる心はむすひこめつや御心はえありておとろかせ給

むすひつる心もふかきもとゆひにこきむらさきの色しあせすはとそうしてなかはしよりおりてふたうし給ひたりのつかさの御むまくら人所のたかすへてたまはり給みはしのもとにみこたちかむたちめつらねてろくともしな　くにたまはり給そのひのおまへのおりひつものこ物なと右大弁なんうけたまはりてつかうまつらせけるとむしきろくのからひつともなと所せきまて春宮の御元服のおりにもかすまされりなか　くかきりもなくいかめしうなんその夜おとゝの御さとに源氏のきみまかてさせたまふさほう世にめつらしきまてもてかしつききこえ給へりいときひはにておはしたるをゆゝしううつくしと思きこえ給へり女きみはすこしすくし給へるほとにいとわかうおはすれはにけなくはつかしとおほいたりこのおとゝの御おほえいとやむことなきにはゝ宮内のひとつきさいはらになんおはしけれはいつかたにつけてもいとはなやかなるにこの君さへかくおはしそひぬれは春宮の御おほちにてつゐに世中をしり給へき右のおとゝの御いきをひは物にもあらすをされ給へり御こともあまたはら　くにものし給宮の御はらは蔵人少将にていとわかうおかしきを右のおとゝの御なかはいとよからねとえみすくし給はてかしつき給四の君にあはせ給へりおとらすもてかしつきたるはあらまほしき御あはひともになん源氏の君はうへのつねにめしまつはせは心やすくさとすみもえし給はす心のうちにはたゝふちつほの御ありさまをたくひなしと思きこえてさやうならむ人をこそみめにる人なくもおはしけるかなおほいとのゝきみいとおかしけにかしつかれたる人とはみゆれと心にもつかす

おほえ給ておさなきほとのこゝろひとつにかゝりていとくるしきまてそおはしけるおとなになり給てのちはありしやうにみすの内にもいれたまはす御あそひのおり　くことふえのねにきこえかよひほのかなる御こゑをなくさめにて内すみのみこのましうおほえ給五六日さふらひ給ておほいとのに二三日なとたえ　くにまかて給へとたゝいまはおさなき御ほとにつみなくおほしなしていとなみかしつききこえ給御方　くの人　く世中にをしなへたらぬをえりとゝのへすくりてさふらはせ給御心につくへき御あそひをしおほな　くおほしいたつく内にはもとのしけいさを御さうしにてはゝみやす所の御方の人　くまかてちらすさふらはせ給さとの殿はすりしきたくみつかさに宣旨くたりてになうあらためつくらせたまふもとのこたち山のたゝすまひおもしろき所なりけるを池のこゝろひろくしなしてめてたくつくりのゝしるかゝる所におもふやうならむ人をすへてすまはやとのみなけかしうおほしわたるひかるきみといふ名はこまうとのめてきこえてつけたてまつりけるとそいひつたへたるとなむ